

平成 23 年度 益田市景観ワークショップ

2011. 11. 19 実施



制作：近畿大学建築学部都市計画研究室



この『ますだだより 赤瓦版』は、平成 23 年度益田市景観ワークショップの内容や感想などを、参加者のみなさんにお伝えするための瓦版です。

はじめに

平成 23 年 11 月 19 日(土)に、島根県益田市の飯浦ふれあい福祉会館において平成 23 年度益田市景観ワークショップ「第 2 回 漁村地区」を開催しました。このワークショップは、地域別に全 3 回行うことを予定しています。第 2 回では、漁村風景が広がる飯浦町を対象に、美しい風景の魅力とそこにある課題を抽出し、さらにそれらを守り、良くするための提案も行いました。



平成 23 年度 益田市景観ワークショップ 第 2 回のテーマは漁村!

今回は飯浦町にて「漁村の原風景を守る」と題し、ワークショップを開催しました。前回は、当たり前前の風景を見直し、何気ない風景の中にある魅力に気づくことを目的としていましたが、今回は、魅力的な景観の発見のみに留まらず、気になる景観とその魅力の活かし方や伸ばし方の提案を目的に加えています。

まち歩きでは、前回と同様にポラロイドカメラと写真額縁を使って「飯浦町の魅力的な景観」や、「気になる景観」を切り取っていきました。

テーブルディスカッションでは、撮影した写真を見ながら「なぜ魅力を感じたのか」、「何が課題なのか」を一人ずつ付箋に書いて発表し、それらを模造紙上にまとめていきます。次に、班内で出された意見を基に魅力の活かし方や課題の改善方法を一人ずつ提案していきます。さらに、出された提案の中から、3 つを選び短冊にまとめました。内容は、空き家の活用や景観マップの作成、写真コンテストの開催など、班によって様々でした。

最後に、テーブルディスカッションで使用した模造紙と提案内容をまとめた短冊を示しながら、撮影した風景や議論の内容、提案内容を発表しました。参加者のみなさんは熱心に耳を傾けていました。

日時■ 11月19日(土)
13:30~16:30
参加者■ 31名(+研究室スタッフ10名)
会場■ 飯浦ふれあい福祉会館

ワークショップの流れ

開会・ガイダンス

近畿大学脇田教授から、今回のワークショップの趣旨説明がありました。

前回の振り返り

近畿大学の学生が前回のワークショップの様子、注目された景観について紹介しました。

まち歩き

各班でポラロイドカメラと写真額縁を持ち、飯浦町内の風景を撮影しました。

魅力と課題の整理

撮影した写真を地図上に貼りつけ、各班で魅力や課題を出し合い、まとめました。

魅力の守り方・改善方法の提案

それぞれの魅力・課題に対して、守り方や改善方法の提案を行いました。

全体発表

各班のテーブルリーダーが、飯浦町の魅力・課題・提案について発表しました。

総括

脇田教授から、第 2 回ワークショップのまとめがありました。



1班

メンバー
長田 野村 島田
橋本 篠原 梶本 (TL)
*TL: テーブルリーダー

鏝絵をアピール
(マップ作成・アート展)

海の幸をメインに
他の地域と交流

飯浦人が魅力を再発見!
住民がマップ作り!

提案

- ・潮の香りやカモメの鳴き声も景観の一部
- ・海沿いのつわぶきの色が美しい
- ・漁船が並んでいる漁村らしい風景
- ・海岸の集落ならではの狭い路地
- ・立派な鏝絵が多い、豊かさの象徴
- ・地形が生み出す家並みが面白い
- ・農村側の道幅が、ヒューマンスケールで good
- ・畑と家並み、遠くに山が見える田舎の風景
- ・曲がりくねって表情豊かな小さい川
- ・「半農半漁」を表している小学校の校章!

- ・飯浦海の幸を食べよう会
- ・つり教室・釣り場ポイント作り
- ・外から見た魅力を住民の方々に伝える
- ・益田の中山間地とホームステイの交換
- ・鏝絵マップ作りや飯浦アート展をする

発見



まち歩きの様子



自然・地形と集落の関係を感じ、飯浦の景観を探ることができました。議論の模造紙は意見でいっぱいになりました!

2班

メンバー
青木 熊谷 島川
島田 丸本 門積 (TL)
*TL: テーブルリーダー

漁村の宝を
知ってもらう為の
PR 活動

今の飯浦の良き町を
維持する

廃校の有効活用

提案

- ・川、赤瓦、柿が織りなす素晴らしい風景 (風景に無理がない)
- ・新しく作られた玄関の格子が、飯浦の古い町並みと調和していた新しさの中に温かみを感じる
- ・飯浦らしい古い町並みが残っている
- ・板壁と漆喰壁が一体化していて両方の要素を楽しむことができる
- ・家々に柿や玉ねぎが吊るされており、生活感を感じることができた

- ～飯浦の良さを知ってもらおう!～
- ・スケッチ大会
- ・写真撮影会
- ・健康ウォーキング
- ・夏休みイベント
- ～飯浦の良き町を守り・継承しよう!!～
- ・風景に合った建築を行う
- ・防災の為の空間をつくる

発見



まち歩きの様子



川・海・柿・赤瓦・路地、それぞれが醸し出す飯浦らしさ。飯浦の町の魅力をみんなで感じることができました。

3班

メンバー
渋谷 佐々木 植木
佐々木 植木 松本 (TL)
*TL: テーブルリーダー

魚介類の直売所建設

穴場マップ作成

漁村に泊まろう
～廃校利用の旅～

提案

- ・細い道が入り組んでいてドキドキした
- ・屋号の鏝絵がある家が多い
- ・小学校の周辺は農村の雰囲気だった
- ・日本海の絶景
- ・魚を干す竿が漁村らしかった
- ・空き家が多い
- ・廃校だけど定期的に清掃されている
- ・小学校の記念碑には魚があった
- ・人が親切
- ・船の廃材を利用して小屋が作られている

- ・観光ポイントをマップにして PR
- ・地域の特産を生かし魚介の直売所建設
- ・廃校利用
- ・日本海の絶景を題材にフォトコンテスト
- ・古民家やまちなみに助成金で補助

発見



まち歩きの様子



町歩きでは多くの穴場ポイントを発見しました。テーブルディスカッションでもたくさん意見が出て盛り上がりました。



4班

メンバー
友重 大賀 藤原
堀 大賀 尾上 (TL)
*TL: テーブルリーダー

飯浦をテーマにした
スケッチ大会と写真コンテストを
廃校になった小学校で行う

空家を古民家に
改築して活用

皆で本気でかくれんぼ大会
(漁村ならではの小路 歩ける町)

提案

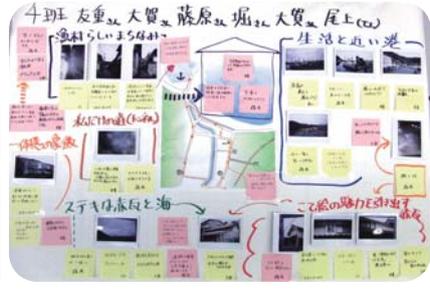
- ・漁村らしく民家が密集した一体感
- ・奥に住んでおられる方だけの為のトンネル
- ・半農半漁の町、廃校の石碑
「海を見よ 空を見よ 希望がわく」
- ・飯浦を見渡す、素敵な赤瓦と海
- ・漁船が集まって賑わっている
- ・漁村ならではの赤瓦にかかった網
- ・漁村の生活の知恵、イカを干す
- ・家や蔵に鏝絵が多く残る街
- ・昔、ご商売をされていた幾田屋さん

- ・廃校や古民家でのカフェ
- ・家が密集しているので火災予防に努める
- ・「赤瓦の景観」を保つためには、
海風・潮風の害を防ぐ方法が必要
- ・若い人を呼びこむ職人技の体験

発見



まち歩きの様子



今まで知らなかった風景をたくさん見つけることが出来ました。また、会場に戻ってからは地元ならではの意見が出ました。

5班

メンバー
小田 児玉 大庭
前田 宮崎 近藤 (TL)
*TL: テーブルリーダー

空き家の情報発信
空き家バンク!

飯浦の風景の魅力を
住民全体で共有する

地域のイベントに
みんなで参加!

提案

- ・かっこいい鏝絵、屋号がモチーフになっている
- ・漁村風景と赤瓦の町並み
- ・海の潮風から守っている板張り壁の家が多い
- ・人口の流出による空き家が多い
- ・車が通れないような路地に情緒がある
- ・まちの外は農村の風景があり、
その中で野菜が育てられている
- ・神社前を横切る線路!
- ・舟と赤瓦の色が海に映えている
- ・古町の町並みに国旗が立ち並ぶ風景

- ・新しい鏝絵を小学生と粘土でつくる
- ・海の資産を活用して空き家を海の家にする
- ・神社で盆踊りと肝試しをする
- ・文化の伝承を進め、
何を残していきたいのか地域で考える

発見



まち歩きの様子



地元と地域外の方々が飯浦の特徴的な風景について意見が出されました。後半には課題の改善や魅力を守る提案を考えました。

6班

メンバー
町田 海邊 島田
木原 南海 渡辺 (TL)
*TL: テーブルリーダー

飯浦の見どころ
マップづくり

護岸を使った
イベントを開催

漁村・漁業について
会館で常設展示

提案

- ・飯浦駅から見た赤瓦の風景が素敵
- ・巨大なカズガイキ(庭木)に時に刻みを知る
- ・飯浦川沿いの干柿等も田舎の風景
- ・小さな生活感を見つけるのが面白い
- ・家や畑、道路沿いの石垣、石積み
- ・狭い路地を抜けると海が見えたのが美しい
- ・古い赤瓦の渋く落ち着いた色合い
- ・畑の中になぜかある“つぼ”が素敵
- ・漁港の油のにおいに懐かしさを感じる
風景とにおいがセットになって良い

- ・飯浦の詳細なマップを作るべき
- ・会館に漁業の歴史や漁具を展示する
- ・護岸を活かした朝市などのイベント
- ・未来に残したい風景をアルバムに残す
- ・路地を使ってかくれんぼ大会

発見



まち歩きの様子



まちに詳しい方の案内もあって、他の班とは少し違った発見もできました。会場でもたくさんの意見や提案が出ました。

参加者の声

水害で町が大きく変わった
と思っていたが、昔からある
モノを大切に、歴史を感じ
る事が出来た。

飯浦の方はまとまりがある
ので他から多く意見を出せば
反応すると思います。

町歩きに適した地区。外部の
人に見に来てほしいのか欲しく
ないのか、基本的な事を地元
の人で話し合っただけ。出来れば
少しずつでもマップを作成し
飯浦の魅力アピールして欲しい。

地区を生かした町づくり、
人づくり。健康を考えてみて
は、と思っています。

漁村と言うと“狭い”という
イメージを持っていたのですが、
その狭さが美しいと言うかちよ
うど良いというか、これが1番
なんだと言う事を実感しました。

発見がたくさんあって、とて
も楽しかったです。自分の住ん
でいる所も歩いてみたくなりま
した。次も機会があれば参加し
たいと思います。

漁村の景観に、近世津和町藩
の港町としての歴史が重なった
コンパクトな町であることを実
感した。

小さい地域で、かなりつ
つこんだ目で見ることが出来た。
山間部からの参加であり、大
きく違った。自分の地域づく
りの参考になった。

カモメの鳴き声、潮の香り、
波の音、景観として目に見え
ない所も景観の1つに感じた。

とても楽しかったです。自分
の住んでいる町を他の人がどう
思うのか知る事が出来て、良か
ったです。

漁港が町の中心で、歴史も生
活も暮らしも眺めも全て、漁港
や海に繋がっていると感しま
した。

古き良き町並みを残しつつ
も、まだまだ新しく出来るこ
とがあるんだと分かり、もっ
と人の集まる飯浦になれば良
いなと思いました。

目的を持って歩いて見ると、
平素気付かぬ事を発見出来る。
閉鎖的な町だが、自然と調和し
ながら活動している風景を見た。

原風景に接して益田市（飯浦）
の良さを改めて認識した。文化
を残す事の大切さと共に難しさ
を感じた。今後も機会があれば
参加したい。

初めて飯浦の町を回りました。
歴史、自然、食と良いと
ころが3つあって住んでみた
いと思いました。

子どもの頃、飯浦の親戚の所
へよく遊びに来ていて飯浦をそ
れなりに知っているつもりだっ
たが、今日のワークショップで
改めて飯浦の魅力を知る事が出
来た。

脇田祥尚教授

ワークショップ総括

今回も前回に引き続き「生活景」の再評価を目的としたワークショップで
した。飯浦を漁村と位置づけて歩きだしましたが、歩いてみると、かもめの
鳴き声や波や風の音に代表される海の風景と、土や緑で構成される農の風景
が共存する姿を確認できました。さらに、蔵に描かれた鍍絵や漁具を修理する
光景に出会うことができました。手技の、あるいは職人の風景です。ほか
にも、高台からの眺望や、路地に展開するヒューマンスケールの空間といっ
た魅力的な風景にも出会うことができました。一方で、空き家が多くみられ、
維持管理の仕組みを考える必要性を実感しました。こうしたワークショップ
を繰り返すことで、その土地その地域がもつ独自の風景を発見・確認しながら、
益田の美しい景観をみんなで守り育てていくような気運を、これからも盛り
上げていきたいと思っています。



次回案内

第3回 歴史的地区 ー萬福寺周辺ー 「歴史的まち並みを守る」

日時 12月18日(日)
13:30~16:30

会場 萬福寺庫裏^{くり}
〒698-0004

島根県益田市東町 25-33



益田市の景観の核となりうる、
萬福寺周辺の歴史的まち並みの今後について考えていきます。



お問い合わせ
次回のお申し込み

益田市建設部都市デザイン課
〒698-8650 益田市常盤町 1-1

TEL 0856-31-0351 e-mail toshi@city.masuda.lg.jp
FAX 0856-31-1480

ワークショップの様子を随時掲載！

益田市景観ブログ いいとこ、みつけた！ <http://blog.canpan.info/mkeikan/>

近畿大学都市計画研究室 <http://390831.blog107.fc2.com/>